（1）　（明治25年３月28日第３種郵便物認可・昭和24年２月17日運輸省特別役務承認第16号）　THE JOM　SHIM BUN　昭和62年（1987年）３月22日（日曜日）　（日刊）

関東ふれあいの道

63年度末に完成

すでに42.8%（県分）整備

観光の目玉へ熱い期待

「人と自然の対話」をキャッチフレーズに、五十七年度から開発一部として首都圏の自然景観は抜群。県は本県分三百七十七キロのうち、六十年度末までに五十二キロ、四十五年までに百キロの整備を終え、今月末には新たにゴンプレット作業を急いでおり、観光の目玉として利用を呼びかけていく。

本県では鬼怒沼の三股石線から鬼怒川温泉までの区間が整備されているほか、栃木、茨城、千葉、神奈川の一都一県を通る八つのコースからなる。

このうち、栃木県内では、日光、那須、塩原、益子、茂木、佐野、足利、太田、桐生、みどり、日光の十コースが指定されている。

県では、今年度中に、日光、那須、塩原、益子、茂木、佐野、足利、太田、桐生、みどり、日光の十コースが指定されている。

県では、今年度中に、日光、那須、塩原、益子、茂木、佐野、足利、太田、桐生、みどり、日光の十コースが指定されている。

「ふれあいの道」と呼ばれるこの自然歩道は、東京・八王子の裏の高尾山から、群馬、栃木、茨城、千葉、神奈川の一都一県を通る総延長三百十五キロ、五十四コースからなる長距離自然歩道。人口の増加や交通機関の発達で、自然とのふれあいが失われていく首都圏で、人が楽しく歩ける、いこいの場を、と整備が進められてきた。

本県では鬼怒沼の三股石線から鬼怒川温泉までの区間が整備されているほか、栃木、茨城、千葉、神奈川の一都一県を通る八つのコースからなる。

このうち、栃木県内では、日光、那須、塩原、益子、茂木、佐野、足利、太田、桐生、みどり、日光の十コースが指定されている。

県では、今年度中に